



東京清掃労働組合
 千代田区飯田橋3-9-3
 TEL (3237) 9995
 1部20円
 編集責任 田口康
 企画・総務 康

わが組合の綱領

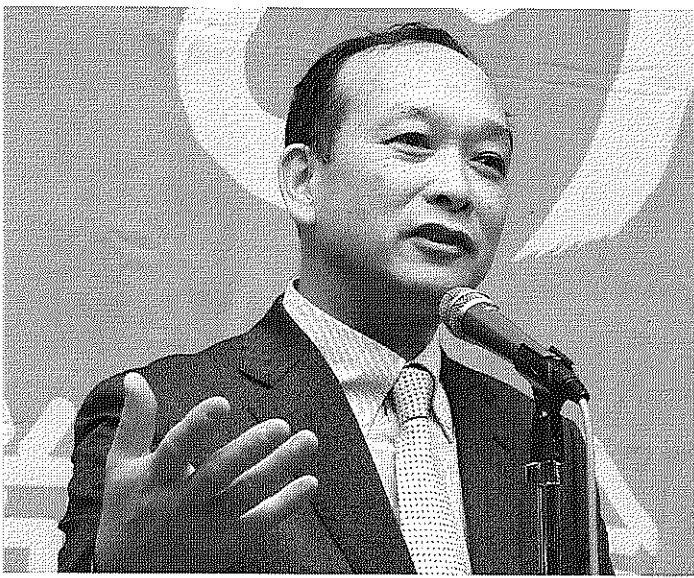
- 一、われわれは健全なる自主的組織を確立し、生活諸条件を確保し、社会的地位の向上を期す。
- 二、われわれは労働者の社会的意義を顕揚し、都区政の徹底的民主化を期す。
- 三、われわれは労働者階級の解放と民主主義日本を建設し、世界平和に貢献せんことを期す。

中央執行委員長就任にあたって

3月24日開催された第89回東京清掃定期大会で中央執行委員長を拝命しました。新たな重責を担うにあたり、その責任の重さを痛感するとともに、組合員の期待に応えられるよう誠実に任務を遂行していきたいと思ひます。

労働組合運動の推進は、組織力と交渉力で決まる

東京清掃労働組合は、2006年に区長会との協約を締結して交渉権を確立し、労働二権を有する唯一の単一労働組合として「自らの労働条件は自らの闘いで守り抜く」という気構えで、困難な厳しい状況を全体の団



中央執行委員長 中里 保夫

結で乗り越えてきました。日本の労働組合組織率が17%台と言われる中、わが組合の組合員数も年を追うごとに減少しています。しかし、そのような厳しい状況でも、わが組合の組織率やスト批准率が高水準を維持しているのは、各職場の運動が確実に維持できているからだと思います。今後も職場の運動を基軸に、交渉力の強化が必要で

ます。その中で、諸行動への参加意欲を高めるためには、その意義を組合員に周知しなければなりません。①労働組合運動に必要な取組は、常に社会の動向に目を向けること。②社会に目を向けて自分自身を磨くこと。③行動から何かを感じ取り、自身の思考力を高め、参加してはじめて理解できるものです。

この間、組合員の皆さんには、高齢者等の訪問収集や戸別収集、小学校等の環境学習、関係法令等の規制値より厳しい自己規制値を設けた公害対策など、よりきめ細かな清掃事業に取組んでいただいています。こうした取組が、住民の安心、安全、快適な生活環境を維持していると思ひます。

しかしその一方で、地方行革という名のもと、退職不補充方針や現業切り捨てという考え方が賞かれ、清掃職場における委託化や職員の非正規化等が激しいスピードで進み、良質な公共サービスとしての概念が疎かになっていくと感じます。

環境行政を含めた街づくりに必要な政策を行うためには、公共事業で働く労働者、労働組合、行政、地域住民、企業などの連携が重要であり、そのような地域のコミュニティを維持・発展させることが、大規模災害発生時等の共助に結びつきます。

通年の取組として実施している各区の自治研活動は、仕事の改革、住民サービスの向上、住民と一緒に進める街づくりに活かされるべき姿を明確にすることが必要です。

改めて、清掃事業の統括的責任を有する特別区と清掃一組のあるべき姿を明確にする取組が求められています。

さらなる組織力の強化を目指します。組織力の強化とは、①仲間と共に行動すること。②今よりも状況を改善しようとする発想を持つこと。③不満を言うより行動する姿勢を維持すること。④数が力をなすことを組合員に周知徹底することです。

そしてそのためには、労使対等の原則を基本とした交渉力の強化が必要です。当局と対峙する緊張感の中で、諸要求を実現する運動を進めていかなければなりません。23区と清掃一組当局に対してどう闘っていくのか、各(総)支部の力量が問われます。

23区を貫く組織のネットワークを最大限に活用し、情勢や情報の共有化をはかるとともに、長い年月をかけて培ってきた労働運動の知識・実績・ノウハウに基づく東京清掃労働組合の運動を力強く前進させてい

く取組が必要で、また、青年層の活動を支援し、今後の組合運動の推進役となる人材を育てる環境づくりが求められます。さらに、女性労働者の要求実現と課題を解決するためにも、女性部活動のあり方を早急に検討しなければなりません。

「役員になったら大変だ」ではなく、「役員になれば新たな世界が広がる」という前向きな発想が持てる組織にしていきたいよう。

諸行動への参加 組合員の減少、役員の成り手不足、若者の組合離れ、時間内組合活動の制限などが、大きな課題になってい

ます。その中で、諸行動への参加意欲を高めるためには、その意義を組合員に周知しなければなりません。①労働組合運動に必要な取組は、常に社会の動向に目を向けること。②社会に目を向けて自分自身を磨くこと。③行動から何かを感じ取り、自身の思考力を高め、参加してはじめて理解できるものです。

質の高い公共サービスをを守るために

人が生活を営むうえで、ごみは必ず排出されます。安全で快適な住環境を維持するためには、今後の清掃事業のあり方を労使で十分に協議しなければなりません。その中で特に重要なことが偏在する23区清掃事業では、23区間と清掃一組の連携と調整が不可欠です。



清掃工場が計画外停止を余儀なくされ、各清掃工場のパンカ残が、かつてない程度に増加しました。昨年一昨年ほどではありませんが、一時は、ごみの残量が10万トンを超える事態となりました。そして、今年度はじめのごみ残量から推測すると、昨年度と同様の計画外停止が発生する可能性があります。

良質な公共サービスとしての清掃事業を維持するためにも、作業計画策定をはじめとする様々な交渉を通じて必要な人員・機材を確保する必要があります。地域の公共サービスに携わる清掃労働者として、持続可能な地域社会を実現しましょう。

区・清掃一組という複数の自治体を横断する単一の労働組合として、社会的労働運動を目指します。公権力を伴う指導業務を直営職員の業務とする考えに異論を挟む余地はありません。しかし、収集・運搬という現場の知識や経験、全地域を把握する情報収集能力がなければ、指導業務を担うことはできません。また、清掃工場における直営職員の確実な技術・技能の継承は、安全で安定的な工場運営を維持するための要となります。

新規採用の獲得に向けた取組

人が生活を営むうえで、ごみは必ず排出されます。安全で快適な住環境を維持するためには、今後の清掃事業のあり方を労使で十分に協議しなければなりません。その中で特に重要なことが偏在する23区清掃事業では、23区間と清掃一組の連携と調整が不可欠です。

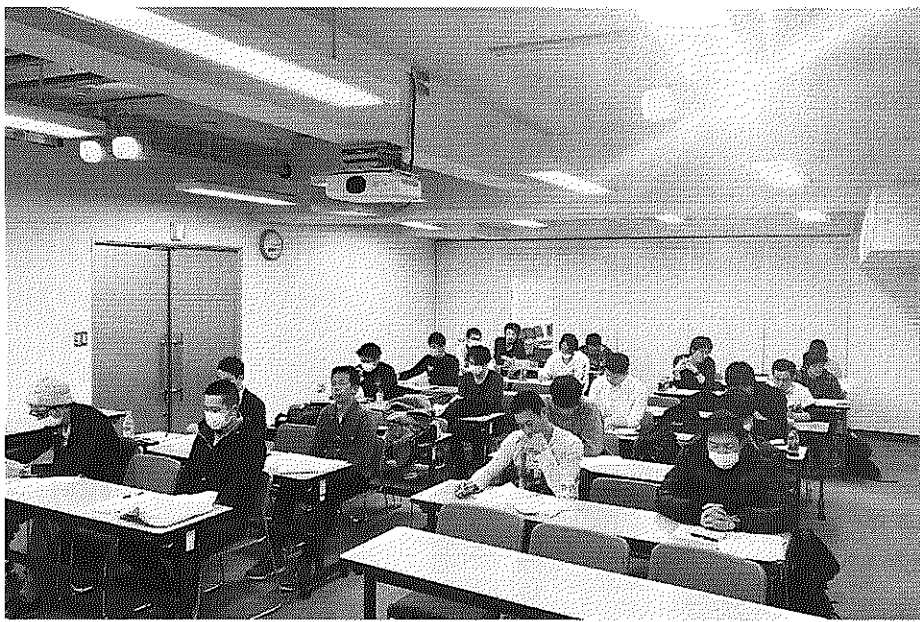
収集・運搬・処理・処分 収集・運搬・処理・処分は相互に密接に関連し、そこに様々な課題が存在することを絶えず意識しておく必要があります。清掃施設が偏在する23区清掃事業では、23区間と清掃一組の連携と調整が不可欠です。

社会的労働運動を目指す 厳しい情勢だからこそ、全組合員が結集して十分に議論し、確実な次の一歩を進めていきたいと思います。

第89回定期大会における「2015組織財政方針に対する総括」の中で、常任中央執行委員と区担当中央執行委員の任務、地連・一組総支部合同会議のあり方が一部見直され、新たな体制がスタートしました。厳しい情勢だからこそ、全組合員が結集して十分に議論し、確実な次の一歩を進めていきたいと思います。

学習・交流から組織強化を図るため、 青年部活動家労働講座を開催！

各支部から21名の青年部員が結集！



3月17日(日)S.Kホールにて、第41回青年部活動家労働講座を開催しました。午前中の講演では、長妻墨田区担当中央執行委員より「労働組合の存在意義・青年部運動の必要性」というテーマで講演をしていただきました。

まず初めに、自身の経歴を話され「労働組合は法律を話されたい」と話されました。

また、労働者がいなかったら社会はどうなってしまうのかということに触れ「使用者は機械や道具は所有しているが、人という生産手段がないので、労働者がいなければ当然困る。だからこそ対等な関係での労使の契約をすべきである」と話されました。

続いて、青年部運動についてでは、「悩みがない人はいない。その悩みを多くの仲間と共有すればあらゆることは大抵解決できる」と述べ、青年部が先頭になって人員要求した結果、それが職場全体の取組になり、全員が休暇を消化できたという話もありました。

また、「青年部運動で得られるものは、職場から全国まで同じ悩みや想いを持った様々な仲間ができる。これが一番大きい。世の中に對してもっと疑問を持ち、何でも自分の目で確かめてほしい。そしてもっと仲間と交流し、横の繋がりを強固なものにしてほしい」と話されました。

最後に、労使交渉がより



「一般参加ではなく本部青年部として主催する側で参加し、さらに進行を務めるということ。今までは違う気持ちで当日に臨みましたが。今回の活労働者は参加者全員が今後の

立憲民主党

まかせたよ!

想いをつなぐ

立憲民主党参議院比例第13総支部長

岸まきこ

岸まきこ 後援会サイト
kishimakiko.com/

自治労は、第25回参議院選挙の全国比例区に「岸まきこ」さん(特別中央執行委員)の擁立を決定しました。

新執行部から運営してみても一言

廣崎 隼人 (文京支部)

「初めての座長という役割を任せられ、会話が途切れてしまったらどうしよう、初めて参加する参加者から上手く話を聞き出せるかなど不安がありました。自分の知識不足もあり、制度の説明、メリット・デメリットなどを詳しく話せなかつたのは残念でした。今後行われる分散会などではただ参加するだけでなく、座長としての立場にも目を向けて取組んでいきたいと思いました。次回の活労働は今回の反省も踏まえてより良いものにしていきたいです。」

山口 明日波 (江東支部)

「一般参加ではなく本部青年部として主催する側で参加し、さらに進行を務めるということ。今までは違う気持ちで当日に臨みましたが。今回の活労働者は参加者全員が今後の

東京清掃を担っていく中、大きな糧になる集会だったと思えました。来年の活労働では今回の反省を活かします。」

また、労働者がいなかったら社会はどうなってしまうのかということに触れ「使用者は機械や道具は所有しているが、人という生産手段がないので、労働者がいなければ当然困る。だからこそ対等な関係での労使の契約をすべきである」と話されました。

続いて、青年部運動についてでは、「悩みがない人はいない。その悩みを多くの仲間と共有すればあらゆることは大抵解決できる」と述べ、青年部が先頭になって人員要求した結果、それが職場全体の取組になり、全員が休暇を消化できたという話もありました。

また、「青年部運動で得られるものは、職場から全国まで同じ悩みや想いを持った様々な仲間ができる。これが一番大きい。世の中に對してもっと疑問を持ち、何でも自分の目で確かめてほしい。そしてもっと仲間と交流し、横の繋がりを強固なものにしてほしい」と話されました。

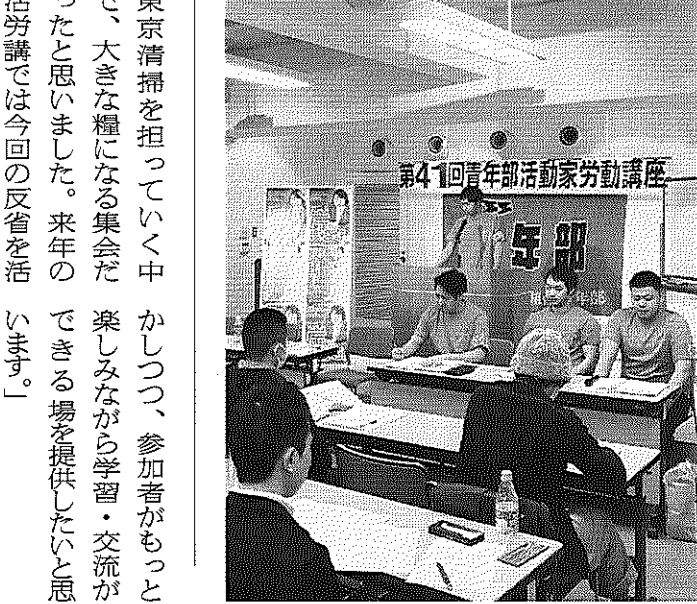
最後に、労使交渉がより

実な想いが垣間見えました。部青年部書記長から「来年人事評価制度については、一部の職員だけで高評価をローテーションしているように見える。自分さえよければいいという考えの職員がいるため、すでに私の職場では分断が起きています」という現状も話されました。

集会の最後には、小坂本

部青年部書記長から「来年人事評価制度については、一部の職員だけで高評価をローテーションしているように見える。自分さえよければいいという考えの職員がいるため、すでに私の職場では分断が起きています」という現状も話されました。

集会の最後には、小坂本



2月12日(土)13日、福島市で開催された自治労安全衛生集会「原発被災地フィールドワーク」に参加してきました。国道6号を南相馬市から南下し、浪江町、双葉町などの相双地域を見学してきました。除染した土を庭先や仮保管場所に保管してきています。福島第1原発から10キロ圏内ではいまだ帰還困難区域となっていて、家の前にはバリケードが設置されていて立ち入ることができず、家屋や庭は当時からそのままの状態で見学されています。

相双地域で働く自治体職員も多くが被災者となり、家庭の事情などで退職せざるを得ない職員も多く出ていました。

震災から8年が経過し、復興が進んでいる地域がある一方で、町村全体で避難した自治体や帰還困難区域やその周辺地域など復興が進んでいない地域も多くあります。そうした中で、原発の再稼働が進められています。被災者の方々は再稼働をどのように思っているのでしょうか。また、私たちに何ができるのでしょうか。今一度考えさせられるいい機会となりました。

(葛飾区担当中央執行委員 水落康治)